

人口減少問題対策に関する提言書

平成27年1月

羽生市人口減少問題対策プロジェクトチーム

目 次

1. 提言書とりまとめの目的	1
2. 提言書の位置づけ	1
3. 本市人口の現状	1
4. アンケート結果の分析と取り組みの方向性	4
5. 人口減少対策施策・事業提案	5
① 定住・移住促進	5
② 雇用・企業誘致促進	6
③ 医療・福祉政策充実	8
④ 子育て・教育環境整備	9
⑤ まちの魅力発信	10
6. 今後の推進に向けて	10
資料編	
1. 羽生市人口減少問題対策プロジェクトチームメンバー	11
2. 活動経過	12
3. アンケート結果	13

1. 提言書とりまとめの目的

現在、本市では第5次総合振興計画（平成20年度～29年度）に基づき総合的なまちづくりを進めていますが、市の人口は第4次の計画期間中（平成10年度～22年度）である平成13年（2001年）の58,155人をピークに減少を続け、平成27年1月1日時点では55,886人となっています。

日本全体が人口減少社会に入っている中、このままでは本市の人口減少はさらに進むと予想されます。平成26年5月、日本創成会議・人口減少問題検討分科会が発表した推計によると、「2040年に49.8%の市区町村で20歳～39歳の女性人口が5割以上減り、推計対象の全国約1,800市町村のうち半数にあたる896市町村が消滅するおそれがある」という推計を発表し、全国に大きな衝撃を与えました。

このような背景のもと、本市の人口減少に歯止めをかけ、「羽生市に住んで良かった」「羽生市で家庭を持ち、子どもを育てたい」と考えていただけるような施策の可能性について調査研究するとともに、少子化対策・定住促進についての施策の展開につなげていくことを目的として庁内横断的なプロジェクトチーム（以下PT）を設置し、ここに提言書を取りまとめました。

2. 提言書の位置づけ

この提言書は、庁内職員で構成されたPTとして、人口減少や少子化、子育て、定住促進等について市民アンケートや要因分析を行い、そこから導かれた施策・事業を取りまとめたものであり、今後の諸施策の基礎資料という位置づけと考えています。

したがって、この提言書に示された施策・事業が全てそのまま実施されるものではありません。

3. 本市人口の現状

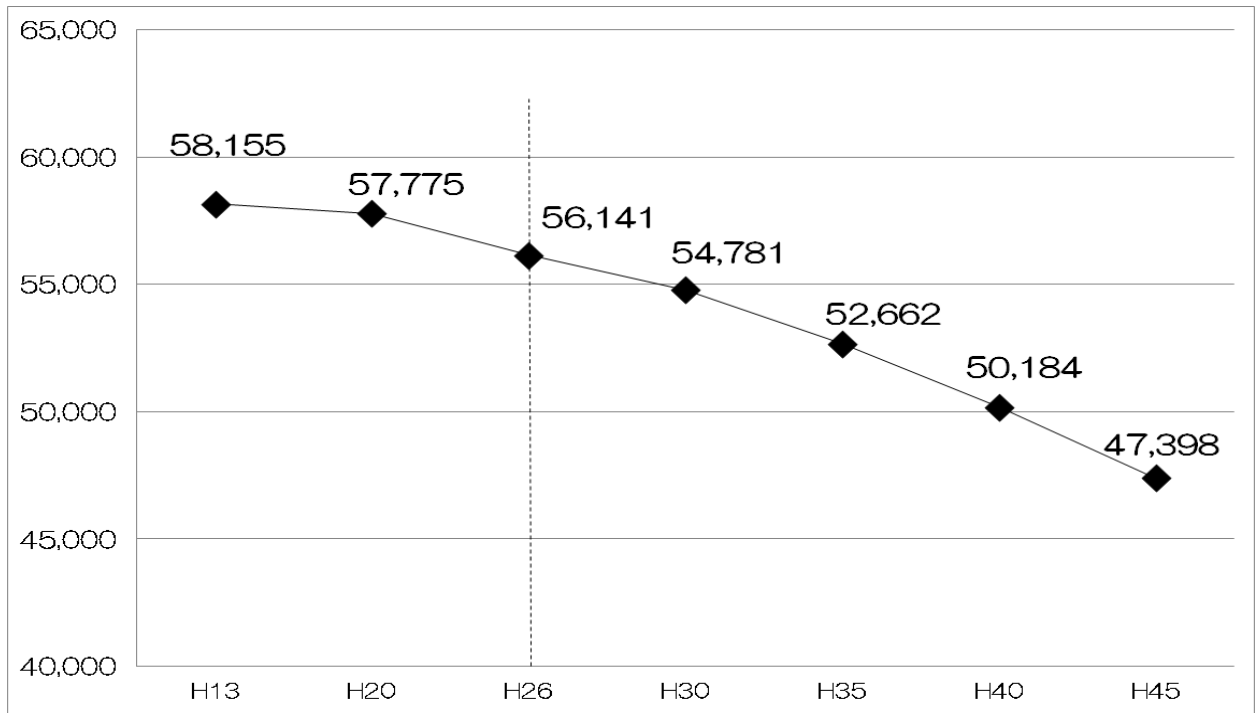
本市の人口は、平成13年の58,155人をピークに減少傾向で推移しており、平成26年現在で56,141人となっています。

また、本市の人口をコーホート法※により推計すると、平成45年には47,398人となり、平成27年に比べておよそ8,500人の減少が推計されます（図1）。

また、年齢3区分の人口構成比は、平成13年に14歳以下の年少人口が14.9%、65歳以上の高齢者人口が17.1%でしたが、平成26年には、それぞれ12.2%、24.8%となり、少子高齢化が進行していることがうかがえます（図2）。

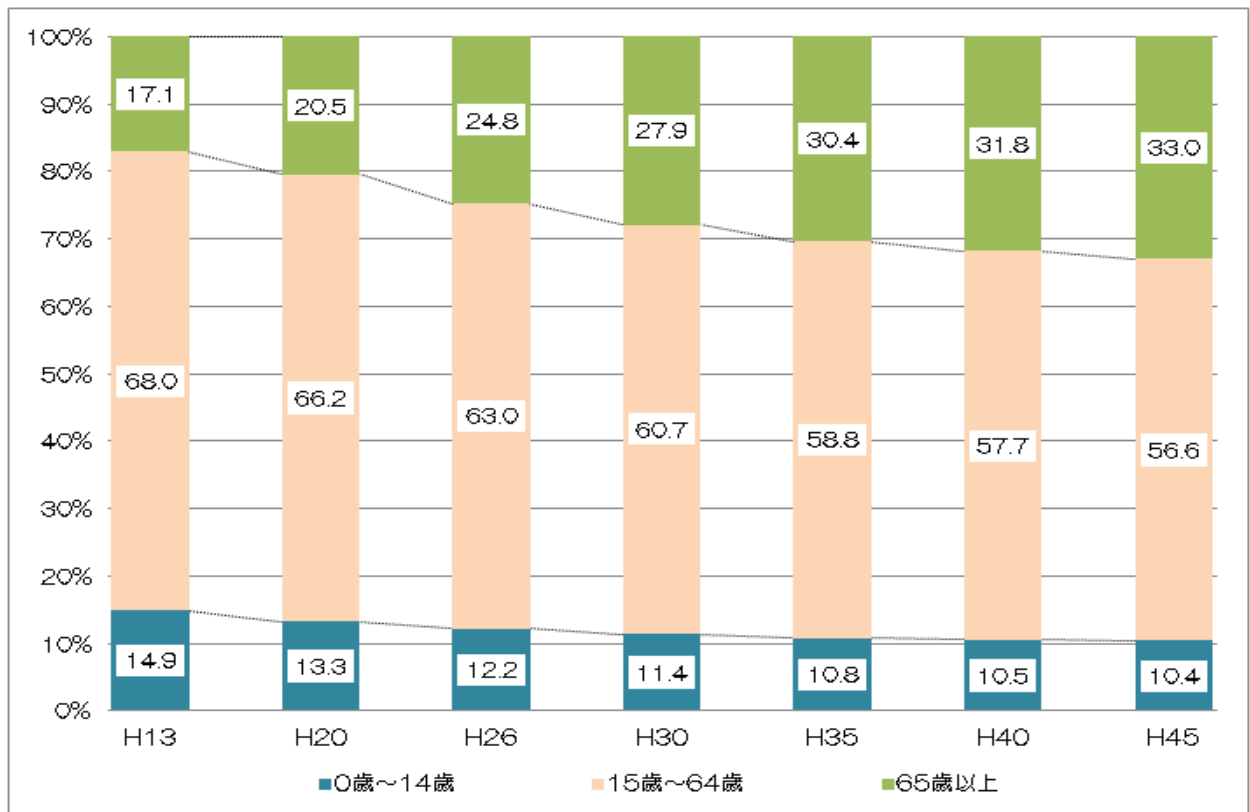
※コーホート法：将来の人口予測を計算する方法で、性別・年齢別生存率・年齢別移動率・連例階級別出生率・出生の男女別比率を用いて予測する人口推計方法

図1. 羽生市の人口の見通し



※コーホート法による将来人口推計（推計基準日：1月1日）

図2. 年齢3区分の人口構成比の推移と見通し



平成23年から平成25年までの転入及び転出の状況をみると、月別では3か年とも4月に転出が多く（表1）、さらに年代別では20歳代と30歳代で転入と転出が多い（表2）ことから、年度当初の進学や就職・転勤に伴う転居が多いと思われます。

表1. 月別転入者及び転出者数（平成23年～平成25年）

平成23年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
差（転入-転出）	59	1	9	-21	-7	-2	-9	-18	-26	-2	14	29	27
平成24年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
差（転入-転出）	-12	-4	-32	-27	28	-16	-14	28	-7	13	-5	37	-11
平成25年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
差（転入-転出）	29	-10	40	-19	34	39	-31	19	-13	-20	24	20	112

表2. 年代別転入者及び転出者数（平成23年～平成25年）

平成23年

年齢区分	0～9		10～19		20～29		30～39		40～49		
転入	205	13.36%	80	5.21%	504	32.83%	396	25.80%	151	9.84%	
転出	144	9.55%	88	5.84%	624	41.38%	343	22.75%	118	7.82%	
差（転入-転出）	61		-8		-120		53		33		
年齢区分	50～59		60～69		70～79		80～89		90～100		合計
転入	86	5.60%	67	4.36%	25	1.63%	19	1.24%	2	0.13%	1,535
転出	86	5.70%	67	4.44%	22	1.46%	13	0.86%	3	0.20%	1,508
差（転入-転出）	0		0		3		6		-1		27

平成24年

年齢区分	0～9		10～19		20～29		30～39		40～49		
転入	225	13.35%	100	5.93%	621	36.83%	407	24.14%	161	9.55%	
転出	203	11.96%	96	5.66%	650	38.30%	436	25.69%	169	9.96%	
差（転入-転出）	22		4		-29		-29		-8		
年齢区分	50～59		60～69		70～79		80～89		90～100		合計
転入	77	4.57%	54	3.20%	25	1.48%	10	0.59%	6	0.36%	1,686
転出	49	2.89%	56	3.30%	22	1.30%	12	0.71%	4	0.24%	1,697
差（転入-転出）	28		-2		3		-2		2		-11

平成25年

年齢区分	0～9		10～19		20～29		30～39		40～49		
転入	212	11.58%	114	6.23%	676	36.92%	429	23.43%	184	10.05%	
転出	163	9.48%	92	5.35%	673	39.15%	420	24.43%	193	11.23%	
差（転入-転出）	49		22		3		9		-9		
年齢区分	50～59		60～69		70～79		80～89		90～100		合計
転入	97	5.30%	59	3.22%	32	1.75%	22	1.20%	6	0.33%	1,831
転出	77	4.48%	49	2.85%	29	1.69%	19	1.11%	4	0.23%	1,719
差（転入-転出）	20		10		3		3		2		112

4. アンケート結果の分析と取り組みの方向性

プロジェクトにおいて、住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民を対象にしたアンケート調査を実施し、人口減少問題に対する市民意見の分析を行いました。

(※資料編 3. 羽生市人口減少問題に関するアンケート調査結果 P.13～P.24)

アンケート調査結果の分析により、本提言書においては、人口減少の抑制のための取り組みの方向性を、下記の 5 つの分野に分けて提言を行うこととしました。

① 定住・移住促進

アンケート問 5 の現在の住まいとして、回答者の 86.03%が「持ち家（一戸建て）」（最多回答数）であり、また問 7 の転入することになった最も大きな要因として、回答者の 31.46%が「新築・中古住宅購入」（最多回答数）と回答しています。さらに、問 17 の羽生市に住んでいて良いと思うことでは、回答者の 7.27%が「住宅条件（土地・住宅価格など）が良い」と回答しています。

このことから、羽生市に転入する方の多くが一時的な居住場所となる借家（アパート等）や社宅ではなく、持ち家（一戸建て）に住み、定住する意向をもって転入する傾向にあることが分かります。

② 雇用・企業誘致促進

アンケート問 12 の子どもの人数が希望したとおりでなかった理由として、回答者の 25.00%が「経済的な理由」（最多回答数）を挙げており、また問 19 の羽生市の人口減少を抑制するために期待することとして、13.22%が「企業の誘致や就労の場の充実」として回答しています。

このことから、羽生市で子どもを産み育てていくためには、企業誘致などにより就労の場を確保することで、経済的な不安を取り除くことが必要だと考えられます。

③ 医療・福祉政策充実

アンケート問 18 の羽生市に住んでいて不便と感じることとして、回答者の 14.81%が「医療機関が充実していない」、7.49%が「福祉が充実していない」と回答しています。また、問 19 の羽生市の人口減少を抑制するために期待することとして、13.99%が「医療機関の充実」（最多回答数）、8.14%が「福祉政策の充実」と回答しています。

このことから、羽生市に住むうえで、医療機関や福祉政策の充実による安心した生活を望んでいることが分かります。

④ 子育て・教育環境整備

アンケート問 10 の結婚している方の子どもの人数において、回答者の 50.52%が「いる（2人）」（最多回答数）で、その平均数が 1.97 人であるのに対して、問 11 の子どもの人数が希望したとおりでなかった方の希望する平均数が 2.58 人と回答しています。また、問 13 の現在子どもがいない方の 51.43%が将来子どもを「望む」（最多回答数）と回答しており、その平均数も 2.11 人で 2 人以上の子どもを望んでいます。さらに、問 19 の羽生市の人口減少を抑制するために期待することとして、9.95%が「保育園の整備など子育て支援の充実」として回答しています。

このことから、人口が減少している状況にあっても、実際には多くの子どもを望んでいることがわかることから、子育て支援や教育環境の充実により、将来を含めた子育てに対する不安を取り除くことが必要だと考えられます。

⑤ まちの魅力発信

アンケート問 8 の転入元において、39.41%が羽生市近郊以外の「県内」（最多回答数）、「県外」も 36.81%回答しています。また、問 19 の羽生市の人口減少を抑制するために期待することとして、5.85%が「市の知名度向上などのイメージアップ」と回答しています。

このことから、羽生市の魅力を積極的に発信することで、羽生市近郊からの転入者だけではなく、遠方からの転入者を増やすことができる可能性があることも考えられます。

5. 人口減少対策施策・事業提案

人口減少対策に関し、市民アンケートや人口動態等をもとにプロジェクトチームにおいて検討し施策・事業提案を5つの分野に分けて次のとおり取りまとめました。

提案された施策や事業については、すぐにでも取り組み可能なものもありますが、多額の経費を要するもの、また、効果についてさらに検証を要するものも含まれています。

① 定住・移住促進

No.1

事業名 (施策名)	転入者に対する市内特産品等のプレゼント
事業概要	市外から転入者に対し歓迎の気持ちを表すため、市内特産品等をプレゼントする。 品物は、彩のかがやきやこぶし花ビール等のキヤッセ羽生産品、藍染め品、商工会商品券・クーポン券など、市内産業の振興にも資するものとする。

No.2

事業名 (施策名)	転入者に対する引っ越し費用の助成
事業概要	市外からの転入者に対し、引っ越しを支援するため、引っ越し業者を利用した場合の費用の一部を助成する。 助成額は、単身世帯の場合は3万円まで、2人以上世帯の場合は5万円までなどとする。

No.3

事業名 (施策名)	移住相談及び生活情報総合窓口の設置
事業概要	移住・転入に関する総合案内窓口を設置し、転入の際に必要な各種行政手続きを案内する。 また、羽生市への転居を考えている方に対する情報提供窓口として、移住相談に応じるとともに、移住サイト等により市内生活情報を集約して効果的に提供する。

No.4

事業名 (施策名)	空き家バンク制度の拡充
事業概要	市内の空き家状況を調査・把握し、移住希望者に対し情報提供を行うとともに、税の減免等の支援制度を創設する。 特に農村部の空き家については、農業体験生活型など、田舎暮らしをアピールするものとする。

No.5

事業名 (施策名)	転入者に対する固定資産税の減免または助成
事業概要	市内に住宅を新築した転入者に対し、新築住宅に係る固定資産税を一定期間免除する。 または、定住奨励金として、固定資産税相当額を一定期間助成する。助成額は一律でなく、基本補助と加算補助など、世帯人数や年齢構成により変化をつける。

② 雇用・企業誘致促進

No.1

事業名 (施策名)	起業支援策の充実
事業概要	市内で新たに市民が会社を起こすための支援策として、起業のための必要資金の一部を低利で融資するなどの、起業支援策を充実させる。

No.2

事業名 (施策名)	新規卒業見込者の市内企業への就労支援
事業概要	新規卒業者が市内企業に就職し、市内に居住し続けるために、新規卒業見込者を対象に、市内企業の説明会や見学ツアー等を開催する。

No.3

事業名 (施策名)	企業の農業参入を促進する農業団地の造成
事業概要	市域の約45%が農地であるが、農業の後継者不足や耕作放棄地が課題となっている。農業団地を造成することにより、企業が農業に参入しやすくなり、農地の有効活用と働く場を確保し、定住人口の増加を図る。

No.4

事業名 (施策名)	新たな工業団地の整備
事業概要	大型商業施設の立地により羽生市の魅力度はアップしているが、さらなる雇用機会の拡大を目指し、新たな工業団地を整備し企業を誘致する。

No.5

事業名 (施策名)	アパレル産業によるファッション発信タウンの創設
事業概要	羽生市は古くからの衣料のまちとして発達してきた。この地場産業である衣料業界を中心として、若い世代の聖地となる「ファッションのまち羽生」を目指す。 若い世代に注目され、市内衣料産業が活性化されることにより、雇用が確保され流入・定住人口の増加が図られる。

No.6

事業名 (施策名)	U・I・Jターンの促進
事業概要	現在、羽生市通勤圏外に居住し、羽生市内への就職を希望している方と即戦力人材の確保を目指す市内企業をつなぐ総合相談窓口を開設する。また、途中で採用を行う企業情報を取りまとめたホームページを作成する。

③ 医療・福祉政策充実

No.1

事業名 (施策名)	健康・医療ガイドブックの発行
事業概要	<p>永住するにあたり、安全安心、特に健康・医療に関する情報を求める声は多い。</p> <p>インターネットを利用しない方もいることから、羽生市内の医療機関及び市の健康に関する事業等の情報を掲載したガイドブックを作成し、安心して羽生市に定住してもらう。</p>

No.2

事業名 (施策名)	病児・病後児保育の充実
事業概要	<p>病気の子どもは、親が面倒をみるのが本来の姿であるが、母子家庭や非正規雇用の増加など、子どもが具合悪くても仕事を休めない保護者が多い。</p> <p>病児・病後児保育を充実させることにより、働きながら子育てしやすいまちとして、若い世代の定着が期待できる。</p>

No.3

事業名 (施策名)	休日・夜間小児医療の充実
事業概要	<p>子育て中の保護者にとって、休日や夜間の子どもの病気は一番の心配ごとである。</p> <p>休日や夜間の小児医療を充実させ、子育て中の保護者が安心して暮らせるまちづくりをすることにより、子育てしやすい街として、若い世代の定着が期待できる。</p>

④ 子育て・教育環境整備

No.1

事業名 (施策名)	岩瀬グローバルタウンによる「文教都市」構想
事業概要	岩瀬土地区画整理事業により道路、公園、表示等の街並みを工夫し「異国情緒漂うまちづくり」を進める。また、公民館主催の「英会話教室」を充実し、2020年東京オリンピック参加国選手団と地域ぐるみで交流する。さらに、岩瀬小学校にALTを常駐させ英語活動を充実し児童英語検定の取得を目指す。

No.2

事業名 (施策名)	出産祝金の支給
事業概要	<p>期間合計特殊出生率(※)は全国 1.43、羽生市 1.10 (H25)であり、現在の人口を維持するために必要な 2.10 を目指すため3人目を出産した場合、出産祝金を一定期間支給する。また、4人目以降も同様とする。</p> <p>※期間合計特殊出生率とは、ある期間(1年間)のその年における15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に産むとした時の子どもの数に相当します。</p>

No.3

事業名 (施策名)	公立保育所の統廃合と児童館複合施設の創設
事業概要	公立保育所を統廃合し、障がい児保育、長時間保育、休日保育、病児・病後児保育など特徴のある保育所運営を行う。その保育所に児童館を併設する。児童館では親子が自由に遊んだり、子どもを遊ばせながら育児相談・就職相談を受けられるような窓口を開設する。

⑤ まちの魅力発信

No.1

事業名 (施策名)	羽生市PRパンフレットの作成
事業概要	羽生市PRパンフレットを作成し、移住を希望する方や移住した方へ配布する。また、全戸配布や公共施設に設置し、改めて羽生市の魅力を再確認していただく。 さらに、パンフレットをホームページに掲載し、「はにゅうに来やっせ」と全国発信する。

No.2

事業名 (施策名)	羽生市PRサイトの開設
事業概要	羽生市へ移住・定住したくなる市の魅力を分かりやすく紹介する専用のサイトを開設する。なお、サイト内は単に情報を掲載するだけでなく、実際に転入してきた家族の声（インタビュー動画）や感想も掲載し、「はにゅうに住んでみやっせ」と全国発信する。

6. 今後の推進に向けて

人口減少は経済活動を縮小させ、都市の活力を失わせる大きな問題です。人口減少に歯止めをかけるためには、全庁一丸となった取り組みを行う必要があります。したがって、各部課はもとより各職員が共通認識を持ったうえで、この問題に真剣に取り組んでいかなければなりません。

また、今回は初めてPTを組織し人口減少問題対策を個別に検討しましたが、今後も切れ目のない支援や施策を実施すべく、更なる事業展開に向けた研究や取り組みを続けることが不可欠です。

そして、本市の将来ビジョン「活力に満ちた 人輝く文化都市 羽生」の具現化に向け、諸施策を将来に渡り強かに推進していく必要があります。

資料編

1. 羽生市人口減少問題対策プロジェクトチームメンバー

	氏名	所属部課名	備考
1	秋山 尚幸	総務部 地域振興課	
2	原田 透	企画財務部 企画課	
3	山崎 友行	企画財務部 財政課	
4	甲山 浩	市民福祉部 社会福祉課	リーダー
5	関口 進	市民福祉部 子育て支援課	
6	清水 昭雄	市民福祉部 高齢介護課	
7	宇都木 一男	市民福祉部 健康づくり推進課	
8	小磯 行男	経済環境部 商工課	
9	立花 孝夫	経済環境部 農政課	
10	阿部 幸夫	経済環境部 環境課	
11	大戸 弘道	まちづくり部 まちづくり政策課	
12	栗原 利夫	学校教育部 学校教育課	
13	池澤 一記	生涯学習部 生涯学習課	
14	赤坂 暁美	生涯学習部 スポーツ振興課	サブリーダー

2. 活動経過

年 月 日	内 容
平成26年 6月27日	第1回プロジェクトチーム会議開催
7月15日～ 7月31日	満18歳以上の市民1,500人を対象とした人口減少問題に関するアンケート調査を実施
7月22日～ 8月14日	職員提案制度において、提案テーマの一つに「人口減少の抑制につながる取り組みについて」を設定し全職員に募集
7月24日～ 8月14日	プロジェクトチームメンバーの施策案を募集実施 メール提出
8月21日	第2回プロジェクトチーム会議開催
9月12日～ 10月2日	プロジェクトチームメンバーの施策案へ投票実施
9月18日～ 現在	人口減少問題に関するアンケート調査の結果を市ホームページに掲載
10月15日	第3回プロジェクトチーム会議開催
10月29日	第4回プロジェクトチーム会議開催
11月6日～ 11月19日	プロジェクトチームメンバーの施策案を再募集実施 メール提出
12月5日～ 12月15日	提言書（草案）に対する意見徴取を実施 メール提出
平成27年 1月7日	第5回プロジェクトチーム会議開催
1月19日	人口減少問題対策に関する提言書提出

3. アンケート結果

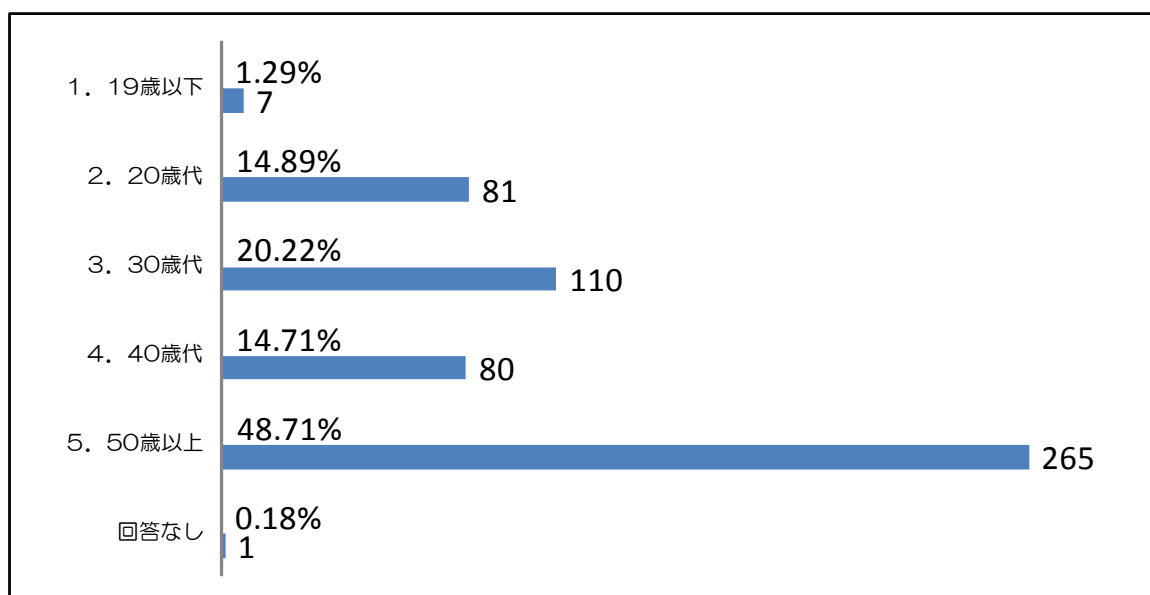
羽生市人口減少問題に関するアンケート 調査結果

1	アンケート期間	平成26年7月15日（火）から7月31日（木）まで
2	対象者	平成26年7月1日現在、住民基本台帳に登録されている市民のうち満18歳以上を無作為に1,500名抽出
3	配布回収方法	郵送による
4	アンケート回収率	36.27%

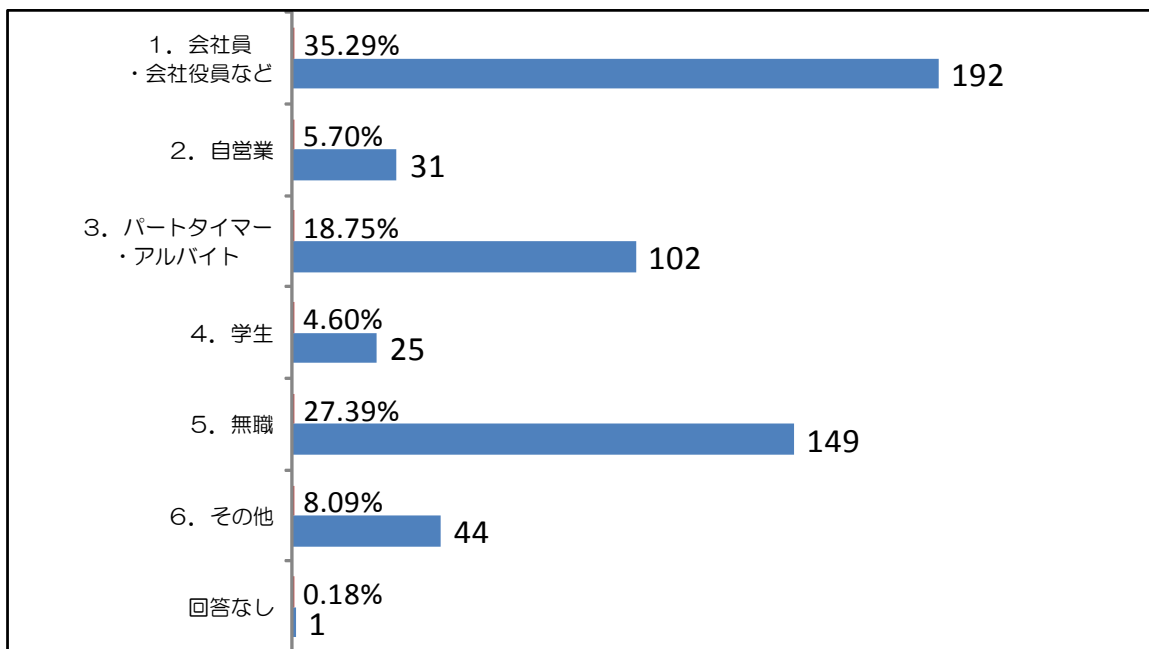
問1：あなたの性別をお答えください。



問2：あなたの年齢をお答えください。



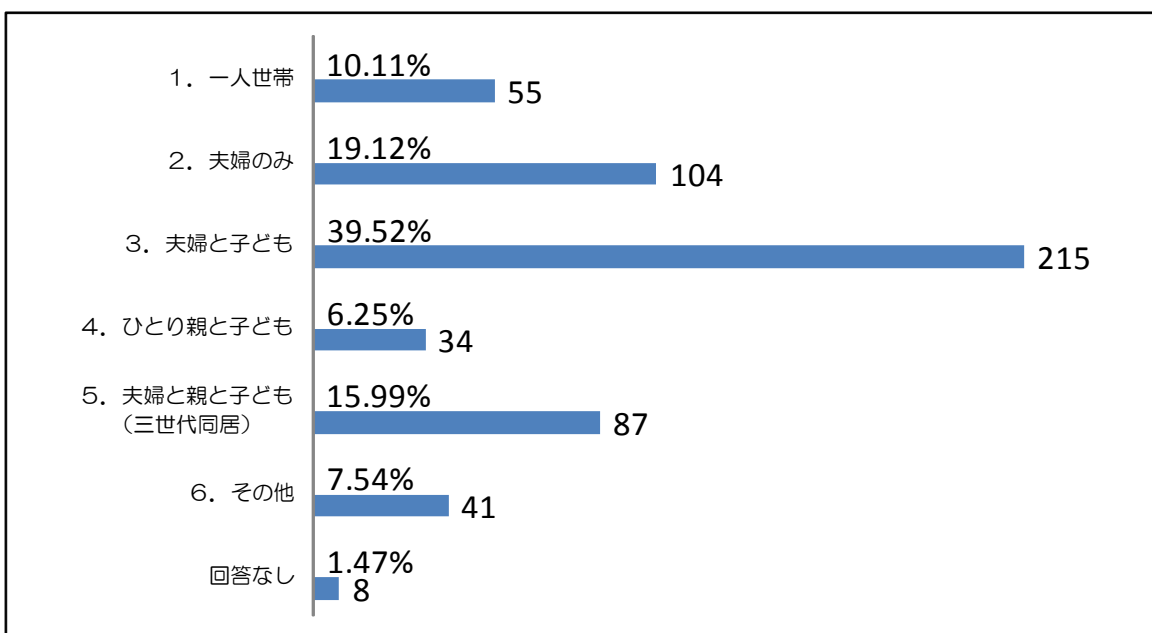
問3：あなたのご職業をお答えください。



6. 「その他」回答の主なもの

主婦（13）、公務員・教員（8）、農業（3）、派遣社員（2）、非常勤講師（2）、不動産経営（2） 団体職員、保育士、サービス業、医師 など

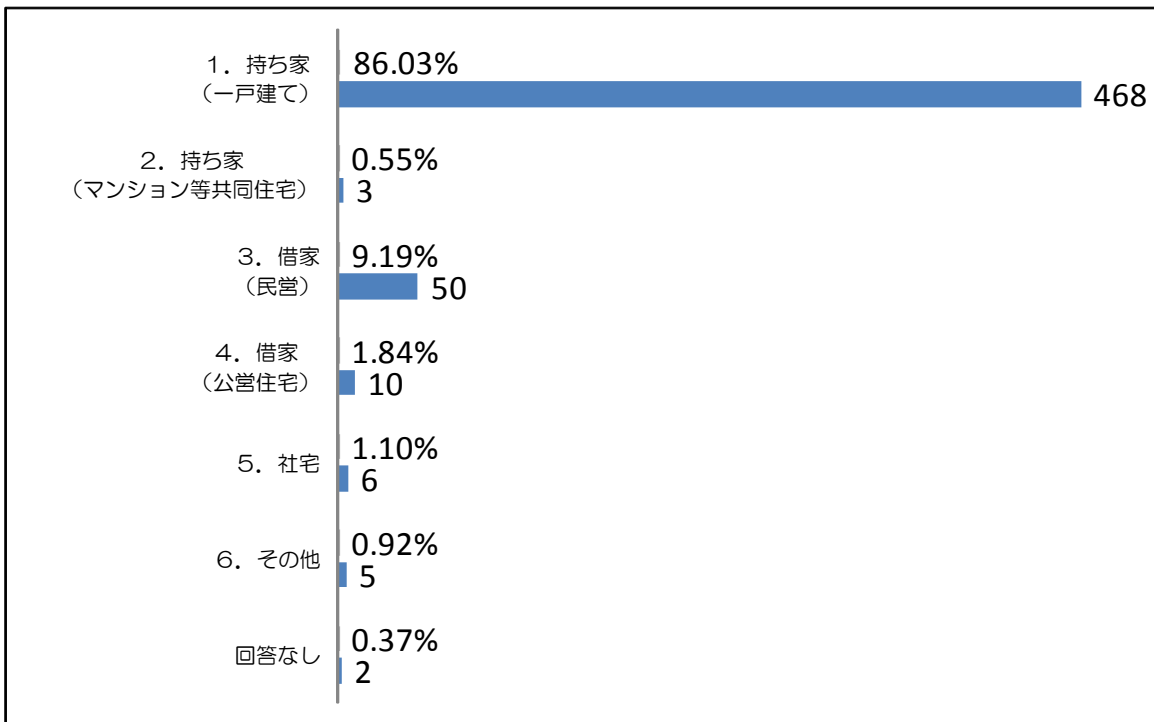
問4：あなたのご世帯構成をお答えください。



6. 「その他」回答の主なもの

自分と親（8）、兄弟と親（6）、四世代同居（5）、夫婦と親（4）、兄弟（2） など

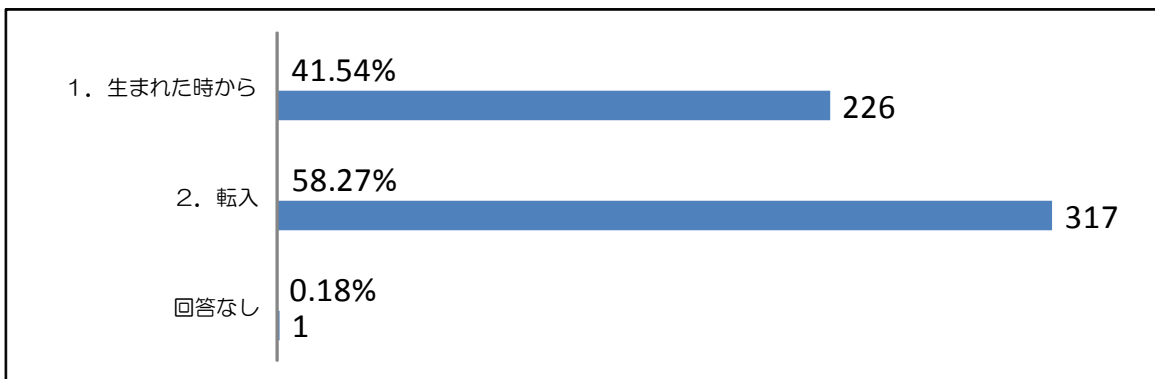
問5： 現在のお住まいをお答えください。



6. 「その他」回答

親の家(3)、兄弟の家(1)、寮(1)

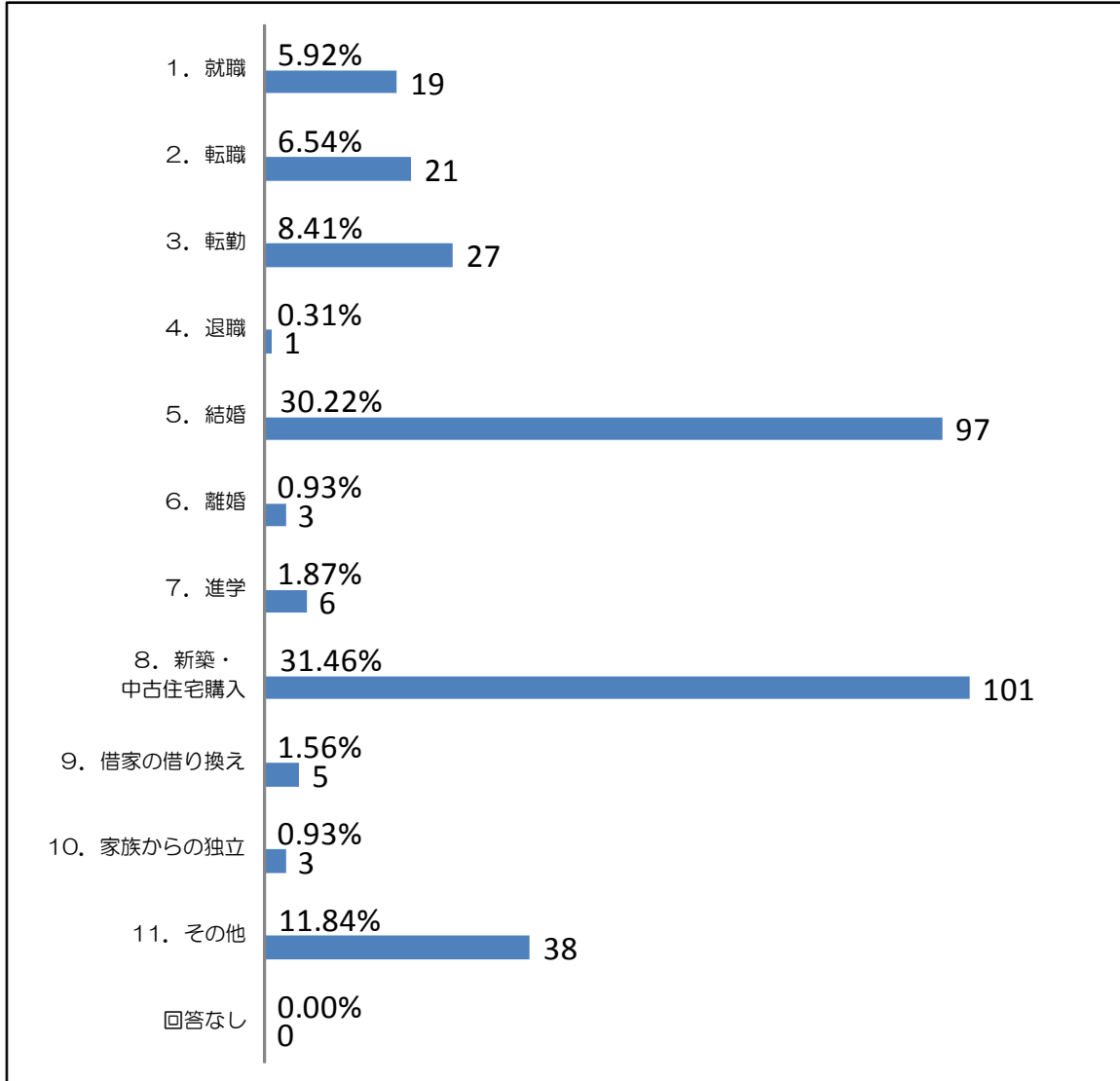
問6： いつから羽生市にお住まいですか。また、何年住んでいますか。



2. 「転入」回答

平成26年(19)、平成25年(29)、平成24年(25)、平成23年(18)、
平成22年(23)、平成21年(11)、平成20年～平成16年(21)、
平成15年～平成11年(8)、平成10年以前(163)

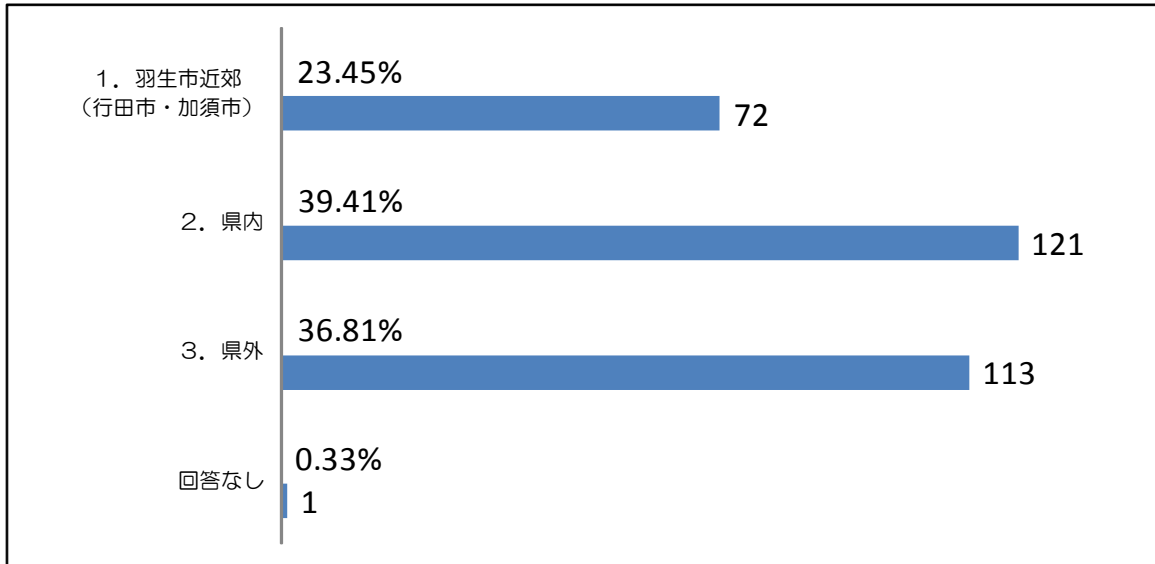
**問7：【問6で「2. 年月転入して 年間」と回答した方に伺います】
羽生市に転入することになった最も大きな要因は何ですか。**



11. 「その他」回答の主なもの

夫・妻の実家があるため（11）、親などの介護のため（4）、親の都合のため（4）、
起業・開業のため（2）、仕事の都合のため（2）、社宅に入るため、土地の価格が安かったため、
家賃が安くインターチェンジも近いため、子どもの学校の関係 など

**問8：【問6で「2. 年月転入して年間」と回答した方に伺います】
どちらから羽生市に転入されましたか。**



2. 「県内」回答の主なもの

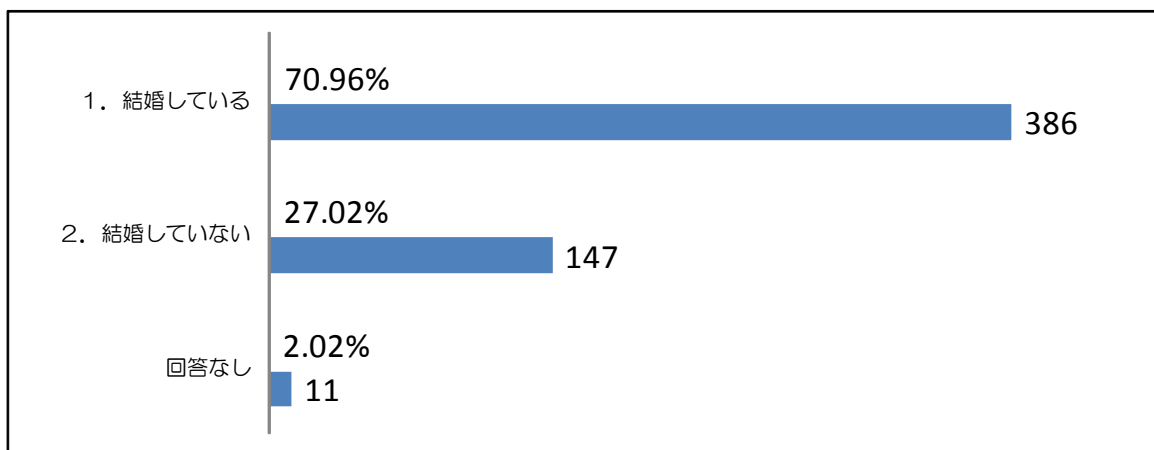
久喜市 (20)、さいたま市 (16)、熊谷市 (12)、鴻巣市 (11)、川口市 (8)、
越谷市 (8)、幸手市 (6)、春日部市 (4)、北本市 (3)、深谷市 (3)、桶川市 (3)、
上尾市 (3)、三郷市 (3) など

3. 「県外」回答の主なもの

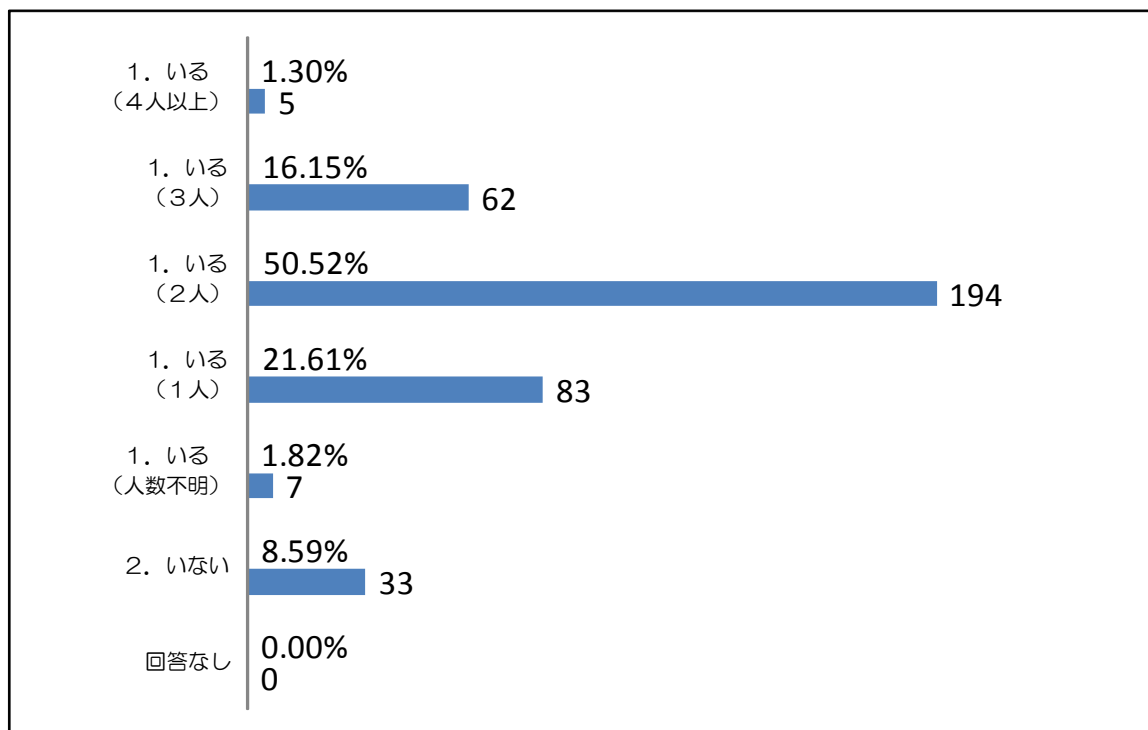
群馬県 (25)：館林市 (10)、明和町 (4)、板倉町 (3)、太田市 (2) など
東京都 (24)：板橋区 (2)、葛飾区 (2)、足立区、中野区、渋谷区 など
神奈川県 (11)：横浜市 (6)、厚木市 (2)、相模原市、藤沢市 など
千葉県 (11)：千葉市 (3)、野田市 (2)、市川市 (2)、習志野市、浦安市 など
栃木県 (10)：宇都宮市 (3)、栃木市 (2)、足利市 など

福島県 (4)、愛知県 (4)、茨城県 (3)、大阪府 (2)、宮城県 (2)、山形県 (2)、
熊本県 (2)、北海道、秋田県、新潟県、長野県、三重県、岡山県、兵庫県 など

問9：あなたは現在、結婚されていますか。

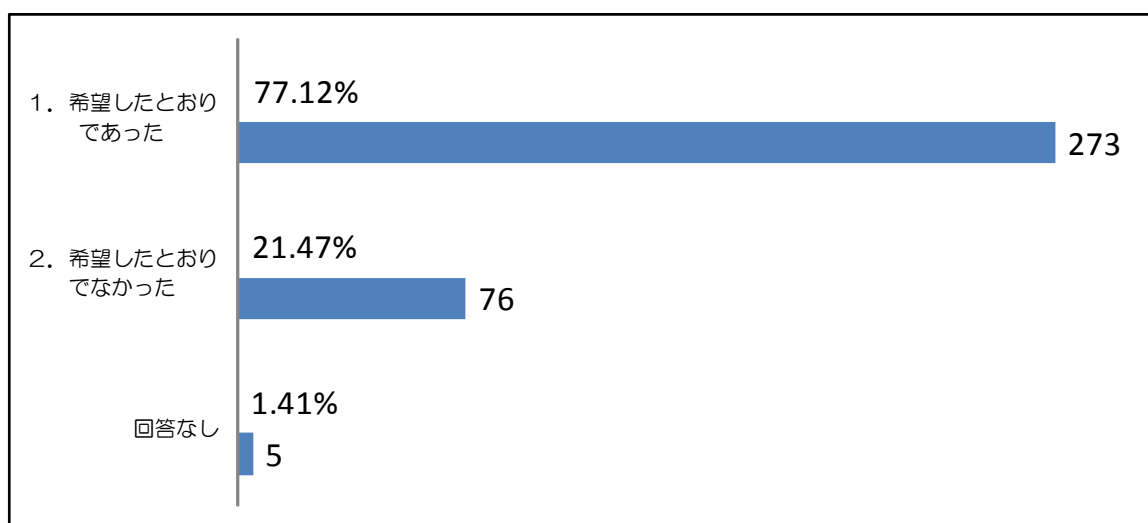


問10：【問9で「1. 結婚している」と回答した方に伺います】
現在、お子さんは何人いらっしゃいますか。



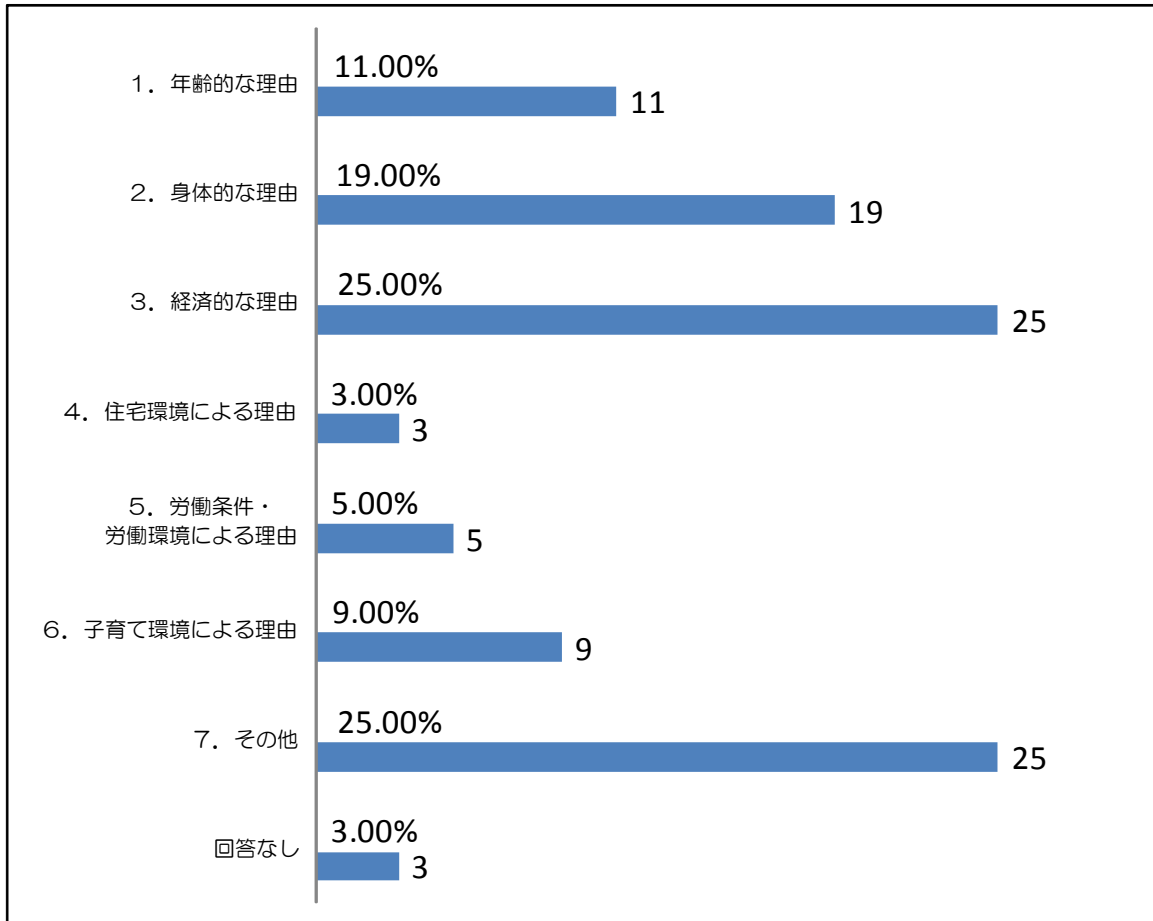
1. 「いる」と回答した方の子どもの平均人数
 平均： 1.97人

問11：【問10で「1. いる（人）」と回答した方に伺います】
お子さんの人数は、希望されたとおりでしたか。



2. 「希望したとおりでなかった」と回答した方の希望する子どもの平均人数
 平均： 2.58人

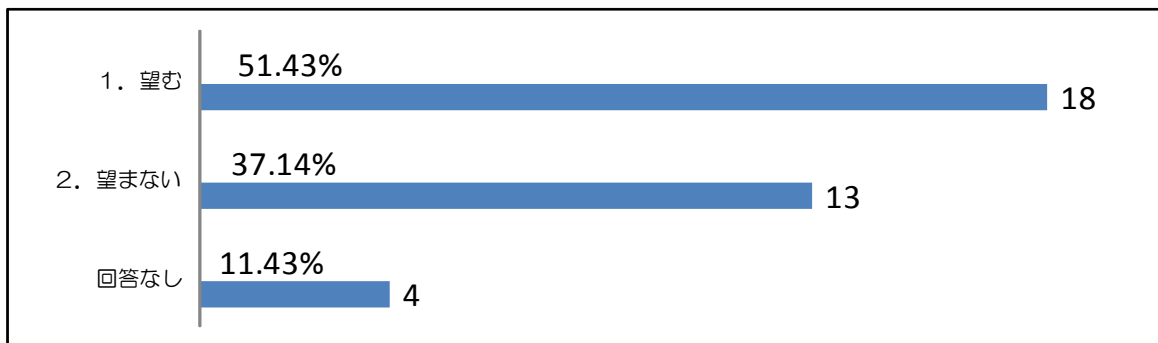
問12：【問11で「2. 希望したとおりでなかった」と回答した方に伺います】希望とおりでなかった理由は何ですか。



7. 「その他」回答の主なもの

欲しくてもできなかった（5）、現在妊娠中、またはこれからを予定している（4）、
出産したばかり（4）、初めての出産が双子だった、子どもが病気のため など

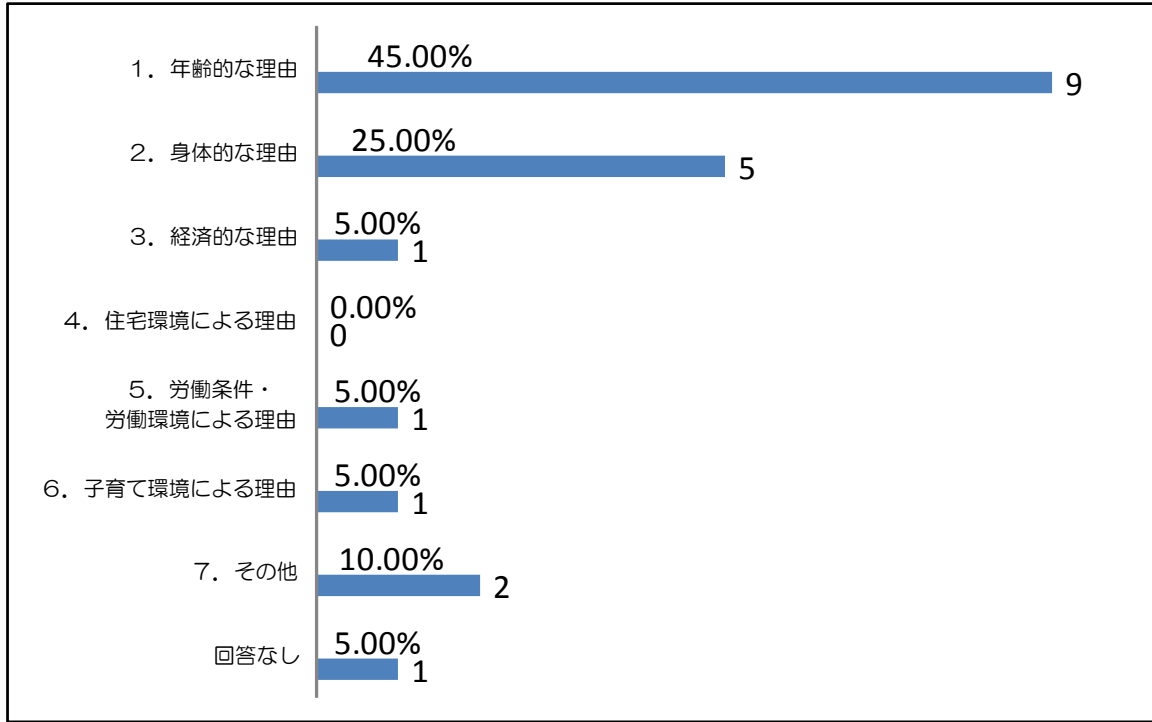
問13：【問10で「2. いない」と回答した方に伺います】あなたは将来、お子さんを望みますか。



1. 「望む」と回答した方の希望する子どもの平均人数

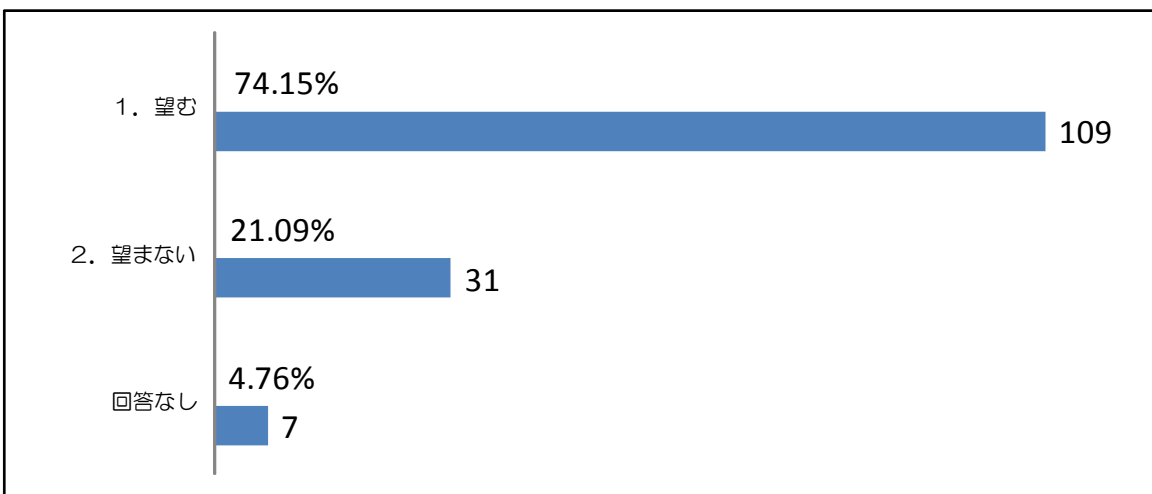
平均： 2.11人

**問14：【問13で「2. 望まない」と回答した方に伺います】
あなたが将来、お子さんを望まない理由は何ですか。**



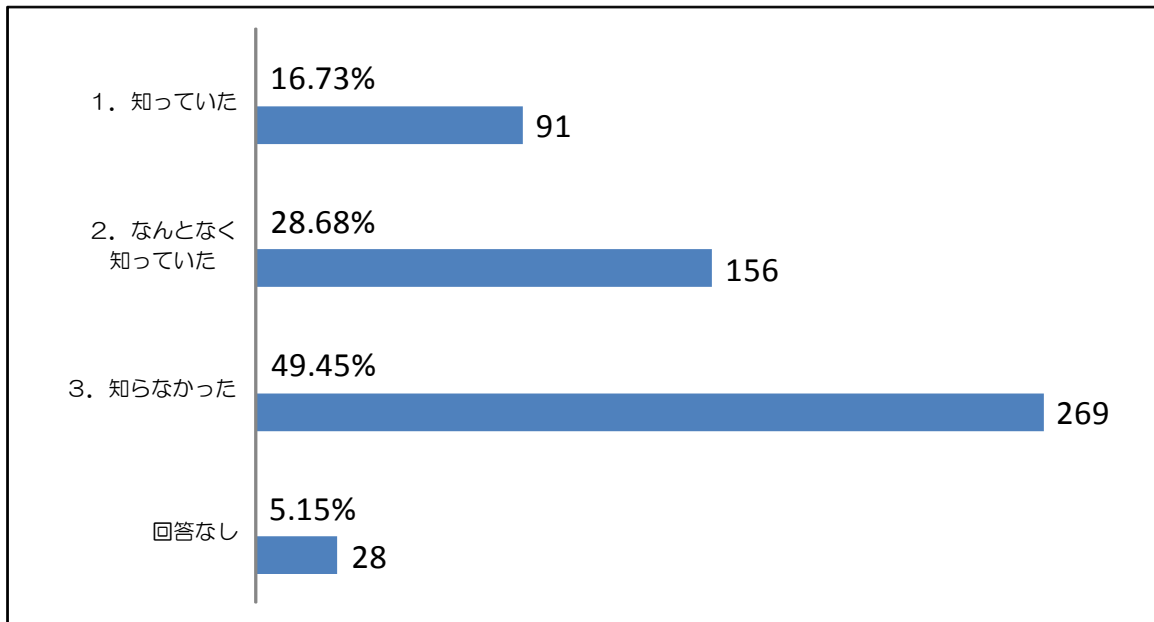
7. 「その他」回答
子どもが好きではない、自由が良い

**問15：【問9で「2. 結婚していない」と回答した方に伺います】
あなたは将来、結婚を望みますか。**

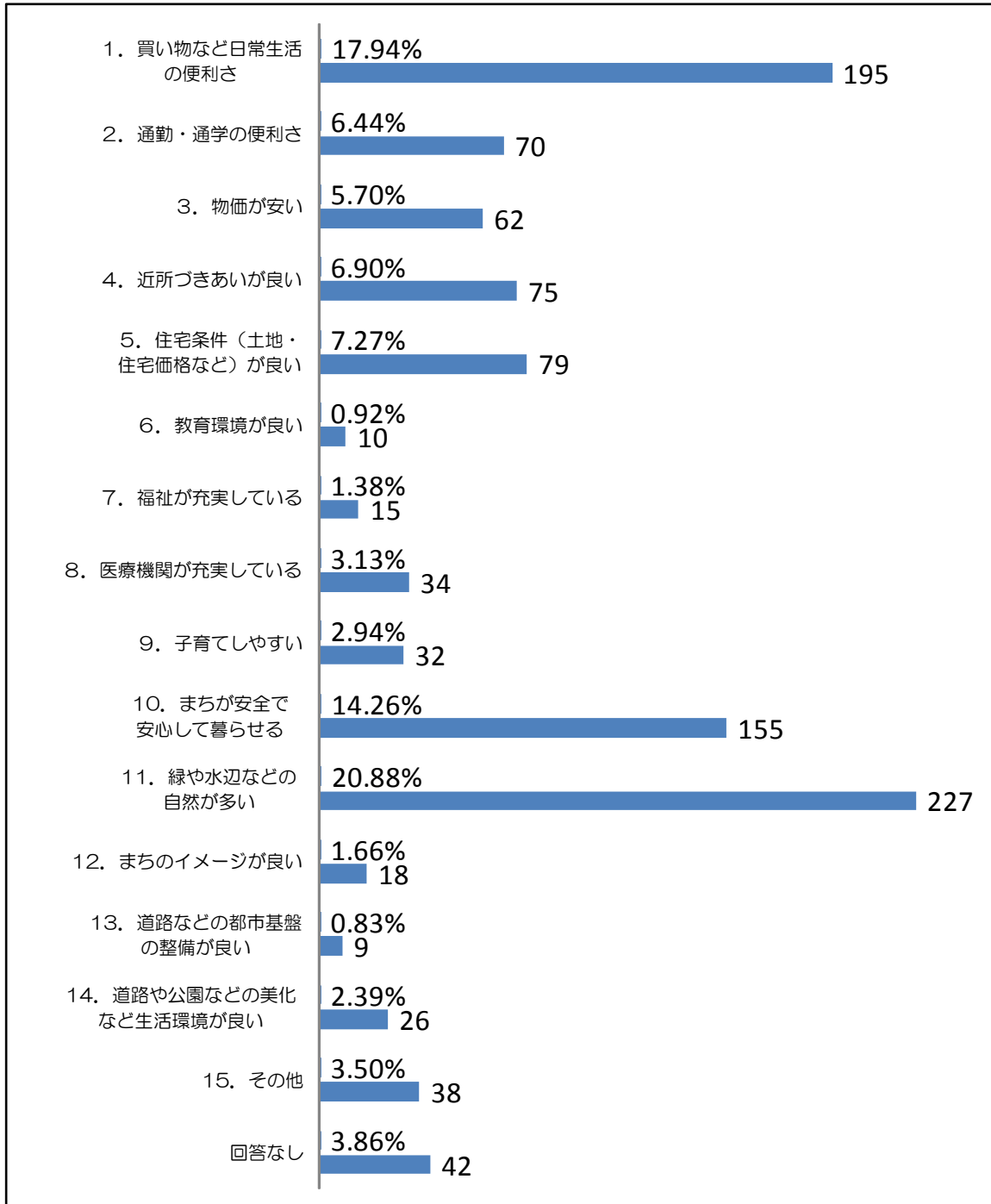


2. 「望まない」回答の主な理由
過去に離婚を経験しているから(5)、年齢が高いから(3)、経済的な理由(3)、結婚の必要性を感じない(2)、今のところは分からない(2)、一人の方が楽(2)、異性が苦手 など

問16： 羽生市の人口は、平成13年1月1日現在の58,155人をピークに減少傾向が続いており、平成26年1月1日現在では、56,141人まで減少していることを知っていましたか。



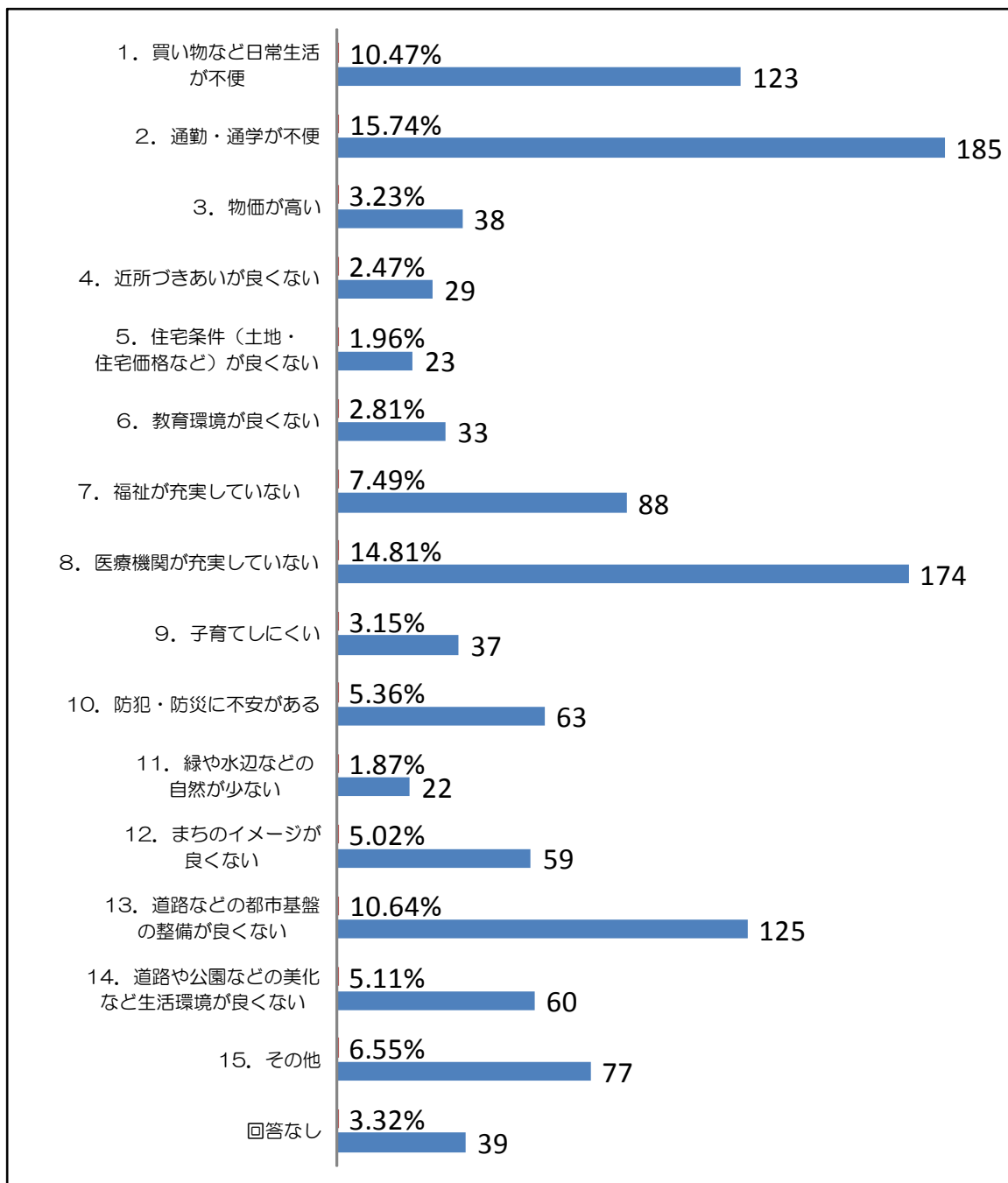
問17： 羽生市に住んでいて、良いと思うことは何ですか。



15. 「その他」回答の主なもの

良いと思うところがない（15）、災害が少ない（6）、イオンモールがある（6）、生まれた場所なので住みなれている（5）、交通渋滞がない（2）、ゆるキャラがある（2）、「何もない」ところが良い、高速道路のインターチェンジがある、分からない など

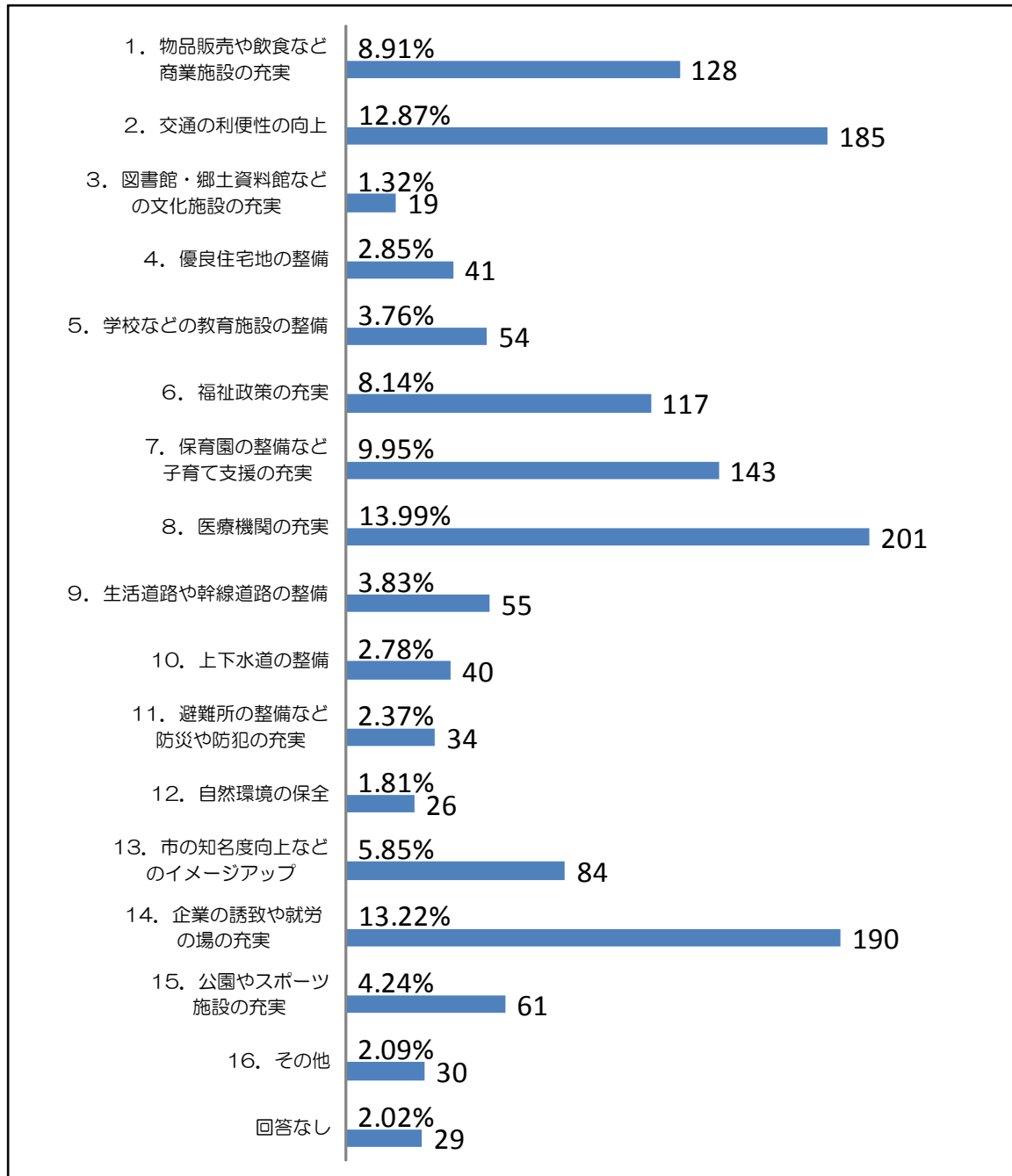
問18： 羽生市に住んでいて、不便と感ずることは何ですか。



15. 「その他」回答の主なもの

税金が高い（13）、特に不便はない（9）、飲食店・衣料品店など店舗が少ない（8）、駅前周辺や商店街が発展していない（6）、公共バスに不便を感じる（6）、街灯が少ない（4）、公園に遊具が少ない（4）、分からない（4）、大雨の時によく冠水する（3）、下水道が整備されていない（3）、子ども医療費の手続きが大変（3）、東京から遠い（3）、都市化が遅れている（3）、市の対応が良くない（3）、鉄道が便利でない（2）、区画整理が進んでいない（2）、自治会の負担が大きい（2）、保育料が高い、道路が狭い、児童館がない、防災無線が聞こえづらい、避難所が遠い、スポーツ施設が充実していない など

問19：羽生市の人口減少を抑制するために、どのようなことを期待しますか。



16. 「その他」回答の主なもの

税金を下げる(4)、ゆるキャラ以外の政策(4)、駅前周辺や商店街の活性化(4)、他市町村との連携・合併(3)、他市町村にはない特色ある教育政策(3)、全てが該当(2)、他市町村にはない特色ある子育て支援策(2)、財政健全化(2)、期待できない、公共バスの充実、女性のための就労支援、施設の統廃合、転入者への助成、羽生市は住みやすい、羽生市は十分頑張っている、羽生市だけの問題ではない、高校生まで医療費無料、小児救急医療の充実、農業の活性化、有識者の意見を聞く、人材の有効活用 など